

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日	平成 26 年 6 月 30 日		
所属学部・研究科	文学部	3 年次 (留学開始時点)		
留学先大学	慶熙大学校 (国名: 大韓民国)			
所属学部・学科等名	交換留学生(学部の所属なし)			
在籍身分	交換留学生			
留学期間	平成 25 年 8 月 31 日 ~ 平成 26 年 6 月 25 日			
<b>1. 渡航について</b>				
ビザについて	ビザの種類: D-2			
	ビザ申請先: 広島総領事館			
	取得方法, 提出書類: ・ビザ発給申請書(領事館窓口にあります)    ・パスポート    ・証明写真 ・普通預金 100 万円以上の残高証明書    ・入学許可書(原本を渡すので要コピー)			
	手続きに要した日数: 一週間(申請から発行まで)			
その他必要な事前手続き				
出国年月日	平成 25 年 8 月 29 日			
経路	福岡空港→仁川国際空港(ソウル)			
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (・ <u>大学関係者</u> ・その他) <input type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	到着翌日、日本人のみのオリエンテーションで授業や外国人登録証についての説明がありました。			
帰国年月日	平成 26 年 6 月 25 日			
経路	仁川国際空港→広島空港			
<b>2. 留学経費について</b>				
所要経費	総額	約 837,000	円	
	内訳	渡航費	往復 約 80,000	円
		保険料	約 114,000	円
		教科書代(学費)	約 10,000	円
		宿舍費	約 323,000	円
		食費	約 300,000	円
		その他 ( 交通 費) ( 費) ( 費)	約 10,000	円
<b>3. 授業について</b>				
年 学期	9 月 2 日 ~ 12 月 20 日			

年 学期	3 月 3 日 ~ 6 月 20 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	TOPIK4 級をあらかじめ取得しておく, 始めから通常授業を受けることができます。
<b>4. 生活等について</b>	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ( )
住居の広さ	約 11 m <sup>2</sup> 同居人の有無 <input checked="" type="checkbox"/> 有 ( 1人) <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input checked="" type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input checked="" type="checkbox"/> その他 (冷蔵庫, 電子レンジ, 2段ベッド, 本棚, クローゼット, )
住居費	1ヶ月当たり (現地通貨) 約 31,000 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ( )
留学先での住居全般に関するアドバイス	
(2) 医療について	
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> なかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ( )
掛け金は	年間 114,370 円 補償額 死亡 円, 入院1日 円 その他 ( )
留学前後での予防接種 の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	
日常的な健康について 不安が	<input checked="" type="checkbox"/> あった <input type="checkbox"/> なかった
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	黄砂やPM2.5は日本よりはるかにひどいです。(一時期咳が止まりませんでした。) 日本と比べて, “風邪を人に移さないようにする”などの配慮をしないので, 自分でしっかりと健康管理をすることが必要です。

留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本、水道水は飲んだり、料理に使用したりしない方がいいかと思います。</li> <li>・暑さ、寒さに関しては、部屋にクーラーもオンドルもあるので大丈夫です。</li> </ul>	
(3) 危険を感じた地域, 状況		
特定の地域は在りませんが、“日本人女性”ということで、積極的に声をかけられたりするので、夜に出歩く際には要注意です。		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
慶熙大学には大学病院が隣接しており、日本語が可能な方がついて下さるので、安心して受診できるそうです。ただ、日本と比べて薬が強いそうなので、常備薬は十分に持っていくことをお勧めします。		
<b>5. 帰国後の進路について</b>		
卒業予定年月	平成 28 年 3 月 (当初の卒業予定年月 平成 27 年 3 月)	
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4 年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input checked="" type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に )	
現在の状況および今後の予定・進路等	実質的には、3 年生の後記からスタートするような形になっています。就職活動、卒業論文共に一つ下の学年の方たちと行うような感じです。	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫		
<b>6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等</b>		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
<b>7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)</b>		

## 学習の概要に関するレポート

私は10ヵ月間（2学期間）ソウルにある慶熙大学に留学していました。慶熙大学には2つのキャンパスがあり、一般的にはソウルキャンパスに留学することになります。

始めの一学期間はソウルキャンパスで語学堂に通いました。語学堂というのは、慶熙大学の国際交流院が運営する外国人が韓国語を学ぶためのシステムです。語学堂には初級1・2、中級1・2、高級1・2の6つの段階があり、始めに実施されるテストで振り分けられ、自身のレベルに合った授業を受けることができます。また、中級2までの課程を終了すると、通常の学部授業を受けることもできます。私は始めのテストで中級1に振り分けられ、1学期間で中級2までの課程を終了しました。渡航時は会話などまったくと言ってよいほどできませんでしたが、一学期間で簡単な日常会話がこなせ、なんとか通常の授業を受講できるほどに上達しました。語学堂の授業は少人数体制で発言機会も多く、文法の規則だけではなく使用する状況や微妙なニュアンスも教えてくれるので、言語の知識だけではなく、実際に言語を使う能力も短期間でかなり伸ばすことができました。また、イタリア、インドネシア、フランスなど多国籍の友人ができることも魅力のひとつです。

後半の学期では、通常の授業を受けることを選択しました。以前までは、語学堂の授業を受けつつ、通常の授業も空いた時間に受講することができていたのですが、平成26年度からそれができないように制度が変わってしまったため、(中国人の友人はできていたようなので日本人のみかもしれません)語学堂の高級に進むか、通常の授業を受けるか選ぶなければいけませんでした。私は言語学を専攻していて、その研究対象を韓国語としたいと考えて留学していたので、韓国語の学習が第一だと考え、引き続き語学堂に通おうと思っていました。しかし、語学堂の先生に韓国の授業がどのような感じで行われているのか実際に受けてみるのもいい経験になると思うとお願いしたことで、興味がある授業が見つかったので思い切って授業を受講することにしました。

慶熙大学には、留学生として多くの外国人が入学しているので留学生専用授業というのがあります。私もやはり中級2を修了したばかりの段階では、韓国人と共に専門授業を受けるのは困難だろうと判断したため、留学生専門授業を受けました。それでも、私以外の生徒は正式に入学している人たちばかりだったので、まだまだ韓国語の実力不足で、先生の講義を録音して家で聞き直すなどして、なんとかついていっていました。韓国の授業は一つの科目に対して、週に2回授業があります。また、講義が主な日本の授業と違い、生徒の発表が非常に多いものでした。グループワークも多く、同じ班のメンバーとひとつの課題に対して、調査、議論し、最終的にパワーポイントを使用して、発表を行います。学びという面だけではなく、これから役立ついい経験になったと思います。

また、“韓日語比較対象研究”という研究対象として扱いたいと思っている授業があったのですが、開講キャンパスが異なり、受講できないとのことだったので、教授に直接連絡を取って聴講をさせてもらいました。これは、外国語学部日本語学科を専攻している生徒が受講するものですが、若干日本で学んだ知識があったのでついていくことができました。卒業論文に向けた研究の足掛かりになったと思います。

## 生活の概要に関するレポート

I-HOUSE4 という学校から徒歩 10 分ほどの寄宿舎で生活しました。始めの一学期間は他大学の日本人のひとと後半の一学期間は台湾人の学生と同じ部屋でした。文化の違いもあり、問題もありつつでしたが、いい経験になったと思います。学内にも寄宿舎があるのですが、そこと比べてよい所は、自炊ができること、自室で洗濯ができること、規則が比較的厳しくなかったことでした。すぐ近くにスーパーや飲食店もたくさんあり、住みやすい所でした。上の階には、管理人をしている学生さんがいて、困ったことなどがあつたら助けてくれます。建物の社長さんもよく見かけたのですが、日本人の友人がいらっしゃるとかで良くしていただきました。

食事についてですが、韓国の食事はおなじみのプルコギやチゲ、ビビンバなど日本でも親しまれているものも多く、食文化の違いに苦しむことはありませんでした。日本食が食べたくなくても、割と日本食のお店があるので特に困ったりはしません。ただ、野菜不足を感じたのですが、コンビニにサラダのようなものはありませんし、自炊をしようとしてもなんでもかなり多い分量で売ってあるので、日本から送ってもらった青汁を毎日飲んでいました。また、韓国は「食事は誰かと一緒にするもの」という文化があるので、メニューが二人前からのお店もめずらしくありませんでした。最後に、水や極度に辛い料理などでおなかを壊すことも多々あつたので、胃薬・整腸薬等を十分に持っていくことをお勧めします。

そして、健康面ですが幸い私は大きく体調を崩すこともありませんでしたが、慣れない環境なうえにソウルの冬は寒さが厳しく、春先の黄砂・PM2.5 はひどいので、しっかりとした体調管理が必要です。友人が肺炎の一手前までいったのですが、慶熙大学の付属の医療院があり、日本語が可能なスタッフの方もいて、安心して受診できたと聞きました。

最後に、語学堂に通っていると、トウミと呼ばれるチューターさんがついてくれます。韓国語のわからないところを教えてくれるだけでなく、週に何回か会って食事に行ったり、遊びに連れて行ってくれたりします。韓国語の会話能力が上達したり、韓国の文化を感じることもできたりとありがたかったです。